



長崎青年協会憲章
 我々は会員の団結と
 相互扶助の精神の基に
 自己の建設と
 会員の親睦を図り
 もって地域社会の発展に
 寄与する事を目的とする

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

社団法人 長崎青年協会

スローガン 本気で語らい実行し、そして新たな歴史を創りだそう



本木昌造



松田雅典

今月の行事

11月12日 人づくり、
 まちづくり
 フォーラム'94
 15日 理事会

20日 ソフトボール大会
 21日 臨時総会

NYA press no.185
April 1994

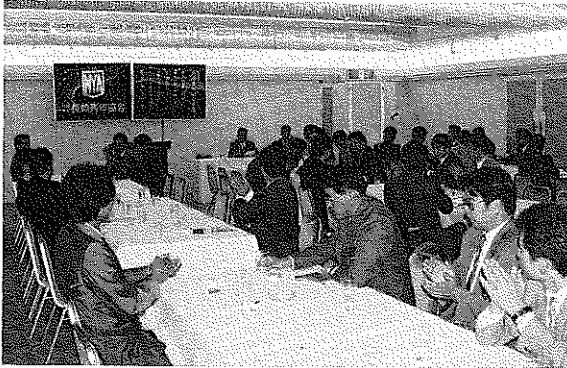
11

発行 長崎市魚の町7-7
 (社)長崎青年協会
 会長 桑田啓伍
 編集 広報委員 廣渡
 広報委員長 廣渡

平成6年度臨時総会

平成6年10月20日 於：ホテルニュー長崎

次年度会長は、新ヶ江憲和君に決定！



平成6年度臨時総会が10月20日（木）、ホテルニュー長崎に於いて行なわれました。いつものように、開会宣言・憲章唱和・桑田会長の挨拶の後、議長、議事録作成人及び署名人の選出がなされ、いよいよ第一号議案、次年度会長選出が審議されました。

今回の立候補者は、新ヶ江憲和君一名だった為、推薦人の金田芳裕君挨拶、新ヶ江君の立候補挨拶の後、直ちに信任投票が行なわれ、定款第14条により次年度会長に新ヶ江憲和君が決定しました。

＜新ヶ江憲和君、立候補挨拶＞



私が青年協会に入会したきっかけは、当時会員開発委員長だった森直前会長に、ある温泉のエッチなパンフレットを見せられ、入会したら連れて行くと言われたのを本気にしたことが原因でした。

入会のきっかけが、こんな調子ですから最初は例会や事業の参加も、熱心にはいきませんでした。しかし参加していくにつれ、仕事やプライベートな事も相談が出来る仲間が増え、そういった仲間達と全体研修やくんちの打ち上げ等で共に汗を流し、楽しく語ることが何よりも楽しい時間になっている事に気付いたのです。高校時代からの付き合いである女房からも、「あなたは昔に比べて、よか男になったね、これも青年協会の御陰よねえ。」と言われ、内心喜んでおります。こういう思いを出来るだけ多くの皆さんに、自分なりに少しでも伝えることが出来ればと思い、立候補させていただきました。どうか皆様の信任を宜しくお願い致します。ありがとうございました。

| | |
|-----|----------|
| 会員数 | 96名 |
| 出席者 | 50名 |
| 委任状 | 25名 |
| 総数 | 75名 総会成立 |

| | |
|--------|------------------|
| 議長 | 吉田正幸君 |
| 議事録作成人 | 石田則広君 |
| 議事録署名人 | 桑田啓伍会長 一ノ瀬敦朗君 |

激闘！青年協会野球部！

10月は、我が青年協会が所属する球栄リーグの最終戦月です。10月13日の試合では、相手チームの打線が初回から活発で、着々と点差をつけられたのです。またチームの2枚看板エースの一人松尾浩君の不調も大きな原因でした。いつもの快刀乱麻のピッチングは見られませんでした。悪いなりに忍耐のピッチングが続きます。そしてついにこれに応え、豊富な代打陣が反撃の口火を切ります。田川俊幸君のヒットを皮切りに、打つわ打つわの安打！また忘れてならないのが、吉田正幸君の果敢なヘッドスライディングです。一塁ベースの1m手前でストップしたこの珍プレーにナインは大爆笑！これで固さがとれて、前述の安打につながったのです。しかし最終回のこの猛攻もあと一点というところで、ついに力尽きました。敗れたとはいえ、ここまで戦ったことにナインは満足気でした。リーグ戦最終戦に期待をつなげる一戦でした。そして19日、前回の勢いをもって最終戦を勝利で飾ろうと意気こんだナインでしたが、相手チームが現れず、不戦勝となりました。



チーム結成一年目の戦績は、3勝7敗でしたが、後半はしぶとい粘りの攻撃が出来るようになり来年は勝ち越しが期待できます。協会の皆様、本年はチームを暖かく見守っていただきありがとうございます。来年も変わらぬ声援をよろしく願います。

前夜祭血おくんち広場

平成6年10月6日(木)

於：江戸町公園



前夜祭の子供たち

江戸町公園で開かれている恒例の「おくんち広場」の前夜祭が、10月6日(木)に行なわれました。今年の前夜祭には、野母崎町の「つみきの会」とハートセンターの「サクランボ園」の児童と家族の皆さんを招待しました。

桑田会長の挨拶のあと、ボランティアでご協力いただきました十善寺龍踊愛好会の龍踊り、和太鼓鼓空の太鼓と、青年協会の中国獅子舞いを見物し、広場のゲームコーナーでたくさん遊びました。人ごみの多い実際のおくんちでは、ゆっくりと楽しむことが出来ない子供たちもこの日は、身近におくんち気分を味わってもらえたと思います。龍踊りでは、何回も“もってこい”の声をかけたり鼓空の和太鼓では、その音の力強さに聞き入り、青年協会の中国獅子舞いは、大きく元気に育つようにと沢山の子供たちが頭を噛んでもらいました。

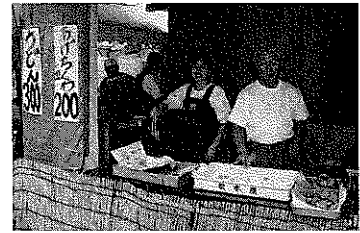


青年協会会員の中国獅子舞い

おくんち広場 '94 開催す!

平成6年7日～9日

今や恒例となった「おくんち広場」が今年も9月7日(金)より9日(日)までの3日間、江戸町公園で行なわれました。今回も前年同様、多くの人達がこの広場へと訪れ、楽しみの場として、食事の場として、又、歩き疲れた時の休息の場として利用されていました。家族や友達同士でアベックでと来訪するこの広場は「長崎県くんち」の“常”として今や存在しているかの様な賑わいを見せていました。広場の中央に置かれている多数のテーブルには、「うどん」や「フライド・ポテト」・「かき氷」・「焼鳥」はたまた今年新発売で大人気の「揚げ竹輪」を美味しくそれに食味をする人達でごった返していました。又、ゲーム・コーナーでは沢山の子供達が、サッカーゲームやバスケットゲーム・ダイスゲーム・鐘叩きゲームとこの広場ならではのゲームを楽しんでいました。中でも鐘叩きゲームは今年初のニューゲームです。このゲームは、とあるNYA会員が韓国に海外研修へと行った時に見てきた遊戯で勿論、韓国製です。斜め吊りの梯子を落ちないように登って行き、吊してある鐘を叩き鳴らすというゲーム内容ですが、簡単には鐘を鳴らす事は出来ません。梯子が唯の梯子ではなく、その両端が中央で1本のロープとなり、梯子自体が回転する様になっています。これを落ちないようにバランスを取りながら登って行く訳ですが、これが中々難しいものです。大人は勿論、身軽な子供達でさえそう安々と登る事が出来ません。中には何度も梯子から落ち続け、悔しさの余り何回もチャレンジしてくる子供達も在りました。が、しかしこの祭りも3日間有ります。最初は落ちてばかりの子供達も上手くバランスが取れる様になり、まるで中国雑技段(過剰表現)であるかの様に梯子に登り鐘を叩き鳴らす事が出来る様になりました。用意されたご褒美の景品も見ると無くなってしまいそうでした。この様にこのゲームは子供受けが良く大勢の子供がチャレンジして行きました。大人達でさえ「恥ずかしくさえなければやってみよう」と思える状態を楽しそうに梯子に登る子供達に「頑張れ!」と声援がたらまじりそうに見ていました。この鐘叩きゲーム、「おくんち広場」の常連遊戯としてこれからは登用されるのではないかと思います。この他のゲームも、鐘叩きゲームに負けず劣らずの人気で子供達はとても良い3日間を過ごせたのではないのでしょうか。別コーナーでは、これ又「おくんち広場」のもう1つの楽しみ、いや恐怖の「ミステリー館・お化け屋敷」が数多くの人を飲み込み、屋敷内はその人々の悲鳴が響き渡っていました。中ではNYA会員が、日頃の恨みつらみを晴らすかのごとく、それはそれは恐ろしい化物へと変貌し来る人来る人を狂喜の世界へと導いて、真にミステリーハウスの真価を発揮してしま



大人気の揚げ竹輪の売場



大盛況の人だかり鐘叩きゲーム

長崎ネットワーク市民の会だより

今月号より長崎ネットワーク市民の会の各団体を、青年協会に対する意見などを交えながら紹介していきます。

<亀山社中ば活かす会>

幕末の志士、坂本龍馬が、創設した日本最初の商社である「亀山社中」の再生利用を行ない、そこを中心とした伊良林地区の歴史的遺産を守り整備を行ないながらその歴史的価値を広く市民に知らしめ、地域の活性化そして、現在と未来の「長崎」の活性化のために積極的に活動をされています。

現在、会員総数は、約200名、最初は、わずか14人でスタートしたそうです。年会費2,000円。入会方法は、どなたでも随時できます。亀山社中を観光で訪れる方が、入会されていくので県外の方が半数以上だそうです。会員の方々には、年4回の会報「龍馬がゆく道」を500部発行しています。

平成3年には、坂本龍馬の像を建立、毎年亀山社中の公開を軸にして春の花見の会・秋の月見の宴・亀山社中幕末祭の催しなどを行なっています。又、亀山社中の中では、龍馬の手紙・てぬぐい・絵ハガキ・ハタなどを展示即売して会の運営にあてています。



ガールスカウトのみなさん
も見学にきました

今年は、会結成5周年にあたり長崎の子供達に郷土の歴史と文化に親しみと誇りを持ってもらおうと“子供スケッチコンクール”を春に行ない123点の力作が集まりました。

青年協会に対する意見を御聞きしたところ、「亀山社中ば活かす会は、歴史を活かした街づくりを行なっている。青年協会は、年間いろいろな活動をされているが、やはりJCに比べてPR不足である。地域に根付いた市民に知られる協会にしかない事業をまずは1つ持つておくべきだ。それが他団体・地域とつながっていくような活動にしてほしい」と言う感想をいただきました。

<商工会議所青年部>

会の理念、目的……長崎商工会議所の事業活動に寄与するとともに、商工業の振興を通じ地域社会の発展を図る。会員相互の啓発・親睦を図り、経営者としての人格・教養及び経営能力を高める。

青年部の会員数は160名、年会費60,000円、年齢は45才までとなっています。広報誌は、現役・OBに配布され現役には毎月22日、「ホテルニュー長崎」にて行なわれる例会場で渡されています。

今年の青年部の活動は、みなとまつりが「ながさきみなとまつり」と称し大きく変わった事で準備・運営も大変でした。又、11月24日～26日に長崎で開催される青年部全国大会の準備で大忙しです。

ネットワーク、青年協会に対しては、「ながさきみなとまつり」も現在は市民相互のまつりになっているが今後は県外からも呼ぶ形になると思う。その為には、ネットワークが先頭に立って行くべきです。又、協会に対しても会の発足時と現在までに至る間に行政・経済も変わってきている。同様に、その会の目的も変わって行くはず。今はその目的が問われる時期にきている。その時代にあった目的・目標を持って活動していきましょう。今の活動は、今年だけの物ではない。後生の為に行っている活動である。他の団体も同じだと思いが、現在の時代の形を見据えてその会を維持する為には、その組織の本当の姿で、共にがんばりましょう。」と力強い御意見をいただきました。

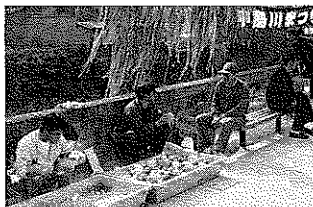


ながさきみなとまつり'94
オープニングセレモニー

<であいの会>

旅博の時、中島川流域の各町青年部に声をかけ“であいのゾーン”の実行委員会を発足させた事が、この会の始まりです。現在の会の目的は、中島川流域及び地域社会の活性化並び環境美化の運動を第一義とし、ボランティアの精神をもって活動を行い、会員相互の親睦と進歩発展に寄与する事となっている。

であいの会の年間事業は、メインの春と秋の“中島川まつり”7月中旬にブラッシングリバーサイドと銘打つ中島川周辺の清掃、その後8月から9月中旬まで夜の中島川をボンボリで明るく点灯して地域の人達に楽しんでいただいています。今年は“街なみを美しくする推進協議会(長崎市)”より表彰されました。



中島川まつり

青年協会に対する意見を御聞きしたところ「これからは、行政と民間との協力が必要になってくると思います。このようなボランティアをする場合に一番必要なのは情熱ですが、その活動を継続させるにはそこに生産性が必要だと思います。長崎には、沢山の町おこしの材料が眠っています。

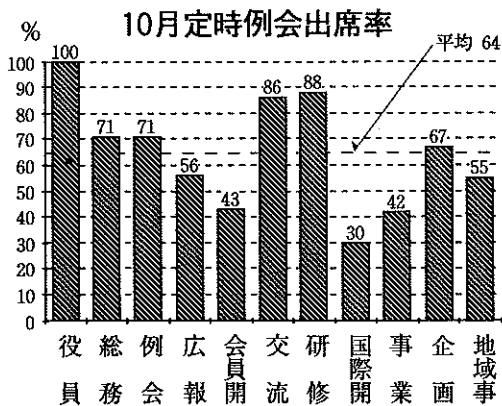
その材料をうまく利用し、生産性が伴うボランティアを行なう事で、長崎の青年も集まってくると思います。」と、参考になる意見をいただきました。

赤ちゃん誕生おめでとう

パパ 伊藤 克樹 君

ママ
穂波ちゃん
長女 (第2子)

10月15日生まれ
きっと美人になる
ことでしょう



お外 BABY



● 甦れ! 歴史人物100選 (表紙説明) ●

今月は、本木昌造、松田雅典の二人を紹介します。先日紹介した、大浦けい、小曾根乾道と同じく長崎の出身で、本木は日本の活版印刷の創始者、松田は缶詰製造の創始者といわれ、文化、経済面で大きな功績を残した二人です。

人物紹介

本木昌造 (1824 文政7~1875 明治8)

新大工町に生まれ、オランダの書物を通じ科学の分野を学んだ。鮑ノ浦製鉄所で主任となり日本で最初の鉄橋を築町と西浜町の間にかけたほか、現在の中央消防署の裏に新町活版所を開き印刷を始め、大阪、東京でも印刷所を経営した。横浜新聞、長崎新聞の発刊も本木の業績である。

松田雅典 (1832 天保3~1895 明治28)

外浦町 (今の県警付近) にあった広連館 (外国語学校) 勤務時、フランス人教師レオン・ジュリーから牛缶の製造法を学んだ。後に県知事を説得し、現在の日本銀行長崎支店の場所「長崎県缶詰試験所」を設立し、その払下げ後は、「松田缶詰製作所」として経営した。

ゆかりの地紹介

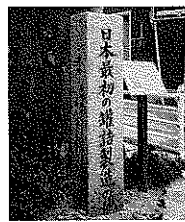
新町活版所跡

興善町: 中央消防署裏、自治会館角に新町活版所跡の石碑がある。近代活版印刷発祥の地である。居宅は、現グランドホテルのあたりにあった。



松田缶詰製造所跡

炉粕町: 現在の日本銀行長崎支店横、県立図書館登り口に、日本最初の缶詰製造の地と書かれた石碑がある。松田の墓は皓台寺にある。



お詫びと訂正 10月号

大黒町青年会会長早嶋隆史 (誤) → 加藤正行 (正)

長崎市商工会議所協議会会長 峰 (誤) → 長崎市青年団体協議会 (正)

関係の皆様にお詫び申し上げます。